

## ◎知事あいさつ要旨

皆様方には大変お忙しいところ、今年度最初の大分県行財政改革推進委員会にお運びをいただきまして誠にありがとうございます。再任の先生方、新たに委員をお受けいただきました先生方おられますけれども、今日からまた再スタートということでございまして、何とぞよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

行財政改革というのは、大分県政を進めていく上で大変大事な分野でございます。ここが整わないと何を言っても、何をやるにしても、心もとないということになるわけございまして、そういった意味では大変大事な委員会でございますので、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

先日、21年度の決算がまとまりました。21年度は、景気が非常に悪うございましたが、相当無理をして需要拡大、あるいは雇用対策等で歳出を拡大いたしました。歳入ももちろん拡大したわけでございますけれども、実質収支の黒字額は、皆様方のご指導のおかげをもちまして、過去最大を達成することができました。また、単年度収支も二年連続してプラスということになったわけでございます。県債も、地方交付税の振り替わりである臨時財政対策債は、毎年増えておりますけれども、それを除きますと純粋の借金というのは、毎年減っております。8年連続で減少し、今や8千百数十億というところまで減少しております。これも皆様方の指導のお陰と感謝しております。また、非常の場合の貯金である財政調整用基金も、この委員会で予算総額の5%ぐらい、300億円ぐらいは必要となっておりますが、こちらも21年度末には350億ぐらい、22年度末にも300億円を達成できるのではないかと考えております。決算状況を見る限り、本当にご指導いただきましたお陰で、何とか人並みの体制になったかなと思っておりますのでございます。

しかし、県の方は大変頑張っておりますけれども、心配なのは国の方でございます。来年度の予算は、大変窮屈な予算編成になるだろうと思っております。そのしわ寄せが地方の方にも来ないように願っておりますけれども、必ずしも来ないとは言えないような状況でございまして、そうなりますとまた、地方の財政にも大きな影を落とすということになろうかと思っております。従いまして、ここまでまいりましたけれども、まだまだ油断はできないという状況でございまして、引き続き強力なご指導を賜りたいと思っておりますのでございます。

本日は、監査結果のフォローアップ、公社等外郭団体への関与のあり方、中期行財政運営ビジョンの進捗状況を議題としてご審議賜りたいと思っております。大変大事なテーマでございますので、よろしくご審議の程をお願ひ申し上げまして挨拶といたします。